

2013年7月30日

<ニュースリリース>

～製薬3団体と東京大学が共催～
“グローバル時代の創薬オープン・イノベーション”をテーマに
『ヤング・サイエンティスト・シンポジウム 2013』を開催
・・・創薬に携わる日本の若手研究者育成の一環として・・・

米国研究製薬工業協会(PhRMA)、日本製薬工業協会、欧州製薬団体連合会(EFPIA)の製薬3団体は、東京大学との共催により、来たる2013年8月31日、東京大学本郷キャンパス「伊藤謝恩ホール」において、ライフサイエンスにおける若手基礎研究者を対象に、「ヤング・サイエンティスト・シンポジウム 2013」と題した研究会を開催します。

同シンポジウムは、創薬分野で若手研究者が果たすべき役割の重要性に関して、グローバルな視点から再認識することを研究者たちに促すこと、研究意欲のさらなる向上、創薬分野で世界的に活躍できる人材の育成に繋ぐことを目的としています。産・官・学それぞれの立場から、若手研究者へこうした期待を伝えます。

医薬品の研究開発・イノベーションの促進は、日本再生に向けた政府による成長戦略に盛り込まれている主要課題の一つです。産・官・学が連携して、将来、日本国内のみならず、世界を舞台に創薬分野で活躍できる人材を日本から輩出する布石となることを期待しています。

同シンポジウムでは、長く創薬に携わり、豊富な経験と知見を有する、産・官・学それぞれの研究者から、自らの研究事例をもとに、若手基礎研究者たちに将来への期待を伝えるとともに、若手研究者側からも発表の機会を設けて、異なる世代・立場の間で、これからの創薬オープン・イノベーションのあり方をディスカッションするプログラムも盛り込まれています。

開催概要は、次頁をご参照ください。

また本シンポジウムの詳細及び参加登録は、以下のウェブサイトよりご確認ください。

<http://yss2013.umin.jp/>

※この資料は、厚生労働記者会、本町記者会で配布しています。

この件に関する報道関係者からのお問い合わせ先

「ヤング・サイエンティスト・シンポジウム 2013」運営事務局

(株式会社ジャパン・カウンセラーズ内)

電話 03-3291-0118、Fax 03-3291-0223、Eメール yss2013@jc-inc.co.jp

<開催概要>

～ ヤング・サイエンティスト・シンポジウム 2013 ～

「“グローバル時代の創薬オープン・イノベーション”産・官・学それぞれの若手研究者への期待」

日時:2013年8月31日(土)午後1:00～5:30

会場:東京大学本郷キャンパス「伊藤謝恩ホール」(伊藤国際学術研究センターB2F)

主催:東京大学、米国研究製薬工業協会(PhRMA)、日本製薬工業協会、
欧州製薬団体連合会(EFPIA)

後援:独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)

プログラム 使用言語:英語(通訳なし、パネルディスカッションは日本語も可)

開催挨拶 1 東京大学医学部附属病院 病院長 門脇 孝

開催挨拶 2 日本製薬工業協会 会長 手代木 功

基調講演 『がん創薬研究における標的特定的重要性』
東京大学大学院医学系研究科
分子細胞生物学専攻 生化学・分子生物学講座 細胞情報学分野 教授
間野 博行

講演 1 『次世代の産官学連携によるイノベーションのさらなる加速化』
武田薬品工業株式会社 疾病領域リードグループ統括部門長
ジェイミー・ダナンバーグ

講演 2 『アカデミアからの日本発医薬品創出へ向けて:承認審査を見据えて』
独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)審査センター長
矢守 隆夫

講演 3 『アルツハイマー病:分子病態から根本治療・予防をめざして』
東京大学大学院医学系研究科
脳神経医学専攻 基礎神経医学講座 神経病理学 教授
岩坪 威

◆パネルディスカッション

モデレーター1:山梨大学医学部特任教授(臨床研究開発学) 岩崎 甫

モデレーター2:独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)薬事戦略相談室長 宇山佳明

1) 若手研究者による新薬開発に係る指定発言:

「神経変性疾患に対する disease-modifying therapy のトランスレーショナルリサーチ:医師主導治験の経験から」

名古屋大学大学院医学系研究科 細胞情報医学専攻 准教授 勝野雅央

「新生児で求められる臨床試験」

国立病院機構京都医療センター 小児科医長 河田 興

2) パネルディスカッション

パネリスト:間野 博行、ジェイミー・ダナンバーグ、矢守 隆夫、岩坪 威、勝野雅央、
河田 興

3) 質疑応答

閉会挨拶 米国研究製薬工業協会(PhRMA)在日執行委員会委員長アルフォンソ・G・ズルエッタ